

2018年11月18日 国際英語学部 英語基礎学力型

[I]

A									
1.	2.	3.	4.	5.	6.	7.	8.	9.	10.
(B)	(A)	(B)	(D)	(D)	(C)	(B)	(A)	(B)	(B)
11.	12.	13.	14.	15.	16.	17.	18.	19.	20.
(C)	(B)	(C)	(C)	(A)	(B)	(A)	(C)	(B)	(D)
B									
21.	22.	23.	24.	25.	26.	27.	28.	29.	30.
(C)	(B)	(D)	(A)	(C)	(C)	(A)	(D)	(C)	(B)
C									
31.	32.	33.	34.	35.	36.	37.	38.	39.	40.
(A)	(A)	(D)	(B)	(B)	(B)	(D)	(A)	(C)	(C)
D									
41.	42.	43.	44.	45.					
(C)	(H)	(C)	(I)	(G)					

[II]

A			B				
46.	47.	48.	49.	50.	51.	52.	
(B)	(C)	(B)	(A)	(B)	(C)	(B)	
C				D			
53.	54.	55.	56.	57.	58.	59.	60.
(B)	(D)	(D)	(B)	(A)	(C)	(B)	(D)
E							
61.	62.	63.	64.	65.	66.		
(B)	(D)	(D)	(A)	(D)	(C)		

【問一】

A	B	C
かいり	かんまん	ふかん
D	E	
へんさん	無軌道	

【問二】

①	②	③
高学歴化	エ	ア

【問三】

歴史的俯瞰

【問四】

私が生きる「未来」は、私自身の過去と現在に規定されている。それと同時に、私が生きてきた、そして、生きている時間と空間とに規定されている。この時間と空間とは、私が存在する以前の時間と空間とを含んでいる。まさに「過去に起きた出来事は現在の出来事を何らかのかたちで規定しているし、今起きている現実の上に未来が構築されていく」のだから。こういう歴史意識のもとでしか「未来」は展望しようがないはずだ。

「世界史の教科書や参考書を試験対策のように読み返せばできる」ような歴史の学び方に、私自身も囚われていたかもしれない。自分なりの歴史観や価値観を自己反省的に問うてきたかと自問すれば、心許ない。そうであれば、今からでも遅くはない。自分なりの歴史観や価値観を築いていこう。日本の歴史、世界の歴史を改めて学び直すだけでなく、自分史と真摯に向き合わなければならない。自分自身の十八年間を省察し、評価しなければならない。

「未来」は、それに先行する過去や現在に規定されるとはいえ、決定されているわけではない。「未来」は新たに創造される。どのような意匠を凝らすべきかが、過去や現在に委ねられる。私が歴史を学び直しながら自分を振り返る中に「未来」が創造されると同時に、その行為そのものが「未来」の創造になる。だから、私の「未来」は無でも白紙でもない。たとえ曖昧な歴史観や価値観しか私が備えていなくとも、それに基づいて既に動き出してしまっている。この事実をしっかりと認識したうえで、真剣に過去を学びつつ、「未来」を操舵していかなければならない。

[I]

[1]	妻のヨーコに見守られながら、ジョンがイマジン作曲したこと。(30字)				
[2]	BBCで行われた1980年のあるインタビューの中で、そのイマジンという曲を作曲する際に、オノ(ヨーコ)が一つの(ある)役割を演じた、とジョン・レノン自身が語った。				
[3]	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
	F	T	F	F	T

[II]

[1]	私たちが当たり前のこととして分かち合っている背後事情や価値体系が、他国から来た人々には当たり前のことではないから。				
[2]	単に同じ時を過ごすことは、自分たちの新しい友人たちを、それぞれ興味深い、独自の個々人であると認識する手助けとなる。				
[3]	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)
	T	F	T	T	F

[III]

<p>The number of foreigners who had visited Japan had stayed around five million until 2011 and then had been rapidly increasing. In 2015, it reached around twenty-five million. On the contrary, there weren't obvious changes in number of Japanese who had been abroad from 2000 to 2016, though we can recognize a little decrease in number in 2003.</p> <p>Although we can see the different trends between them, there seems to be no mutual impact. (74語)</p>					
--	--	--	--	--	--

[IV]

<p>大学合格を目標にして、受験勉強に取り組み始めたころは、なかなか学習に身が入らなかった。自分は何も知らないということや、やってもやってもなかなか結果が出ないことなどで、いつも投げ出した気持ちでいっぱいだった。しかし、その努力が徐々に実り、学校の成績も上がり、こうして私が目指していた大学の推薦をいただけることになった。それだけでなく、効率の良い学習法を考えることが、実際の生活にも役に立つようになったことで、今までの努力は間違っていなかったのだと勇気付けられた。</p> <p>始めは小さなつらい努力をたくさんしなければならないが、それが徐々に一つにまとまっていき、大きな実を結ぶことを体験できたことは、とても幸運だったと思う。この受験の経験を大学生活でも存分に発揮していきたい。(332字)</p>					
--	--	--	--	--	--

2018年11月18日 歴史文化学科 国語・日本史基礎学力型

〔一〕

問1	1	2	3	4
	はやし	舞台	そうごん	徹底
	5	6	7	
	妥協	達成	浸透	
問2	ア			
問3	ウ			
問4	オ			
問5	相対			
問6	これを知っ			
問7	イ			

〔二〕

問 1	1	史書	2	判官	問 2	秀衡
問 3		慈円	問 4	北条義時	問 5	後醍醐天皇
問 6		関白	問 7	読史余論	問 8	エ
問 9		徳富蘇峰				
問 10	<p>史実を追求するために必要なものとして文献史料があげられるが、文献史料には出来事が起こった時点で書かれた一次史料，編纂物のように後世に，一次史料を元にして書かれた二次史料がある。後者の二次史料は，編者の何らかの意図により事実が書き換えられたり，内容が省略されている可能性が高い。例えば，埼玉県の稲荷山古墳から出土した鉄剣銘に刻まれた「ワカタケル大王」は，720年に舎人親王らにより編纂された最古の官撰正史『日本書紀』の大泊瀬幼武天皇，すなわち雄略天皇のことと考えられるが，「大王」・「天皇」と呼称に相違がある。このような場合，一次史料である鉄剣銘が正確であり，二次史料である『日本書紀』の「天皇」の呼称は，5世紀のヤマト政権では使用されていなかったことがわかる。また文献史料には，1つの事象あるいは出来事に対して，肯定的・否定的にとらえるなど，編者の立場や視点により異なる場合もある。源頼朝は守護・地頭を設置したが，鎌倉幕府正史『吾妻鏡』では，大江広元の提案により守護・地頭制度が始まった経緯が記されており，大江広元の有能ぶりを伝えている。その一方で九条（藤原）兼実が著した日記『玉葉』では，貴族の立場から守護・地頭の設置が武士の荘園侵略につながることを警戒して，「凡そ言語の及ぶ所に非ず」と守護・地頭の設置に対して反発していることが述べられている。以上のことから史実の追求には，文献史料を読むことは必要不可欠であると同時に，文献史料は，歴史を一方的にとらえるのではなく，多面的にとらえさせてくれる存在であることを教えてくれものである。</p>					

〔一〕

問1	1	2	3	4
	はやし	舞台	そうごん	徹底
	5	6	7	
	妥協	達成	浸透	
問2	ア			
問3	ウ			
問4	オ			
問5	相対			
問6	これを知っ			
問7	イ			
問8	<p>課題文の著者は、日本文化に固有の「間」を理解するヒントとして、能の音楽における「コイアイ」の間の感覚を挙げている。能の演者は人によって異なる「コイアイ」の間を持っているので、お互いに相手の間を計り合いながらも、相手の間に合わせるのではなく自分の間で打楽器を打ち合う。それによって、能の囃子は緊張感を持ち、刺激的、立体的なものになると著者は述べている。</p> <p>私は、日本文化に固有の「間」について、日本の伝統的な武道を具体例に挙げて考えてみたい。私は、数年にわたって空手を習っているのだが、空手の対人稽古や組手には、著者の言う「コイアイ」の間の感覚に似たところがある。たとえば、空手の練習生には各自固有の「間」があり、組手のときには、お互いに相手の間を計り合いながらも、相手の間に合わせるのではなく自分の間で突きや蹴りを出し合う。相手の間に合わせてしまうと、相手の攻撃を一方的に受けてしまうことになり、かといって相手の間を無視していると、技も熟練もない子どものケンカようになってしまう。やはり、お互いに相手の間を計り合いながらも自分の間で打つ、という日本文化に特有の「間」のもつ緊張感がある。</p> <p>著者は、この緊張感をもった「コイアイ」の間の感覚が、能に止まらず日本文化のさまざまな部分に浸透し、さらには日本人独自の生活規範になったと述べている。しかし、著者は、現代の日本人が「個の持つ『間』のぶつかり合いを恐れて、自分の『間』をあいまいにしてしまう」ことを批判し、「日本人が個を確立してゆく」ためには、「コイアイ」の間の原点に立ち返って「ギリギリの間の関係を取り戻す必要がある」とも述べている。これは、異文化共生が課題となった現代では重要な指摘だ。異文化に属する人々との間でも、相手の間を計りながらも個別的絶対的な自分の間を失わないような緊張感が必要になると私も思う。(781字)</p>			

〔二〕

問1	A	本の妻	B	今の妻	問2	エ
問3	種類	尊敬	対象	本の妻	問4	掛詞 もしくは 懸詞
問5	聞け		問6	イ	問7	ウ
問8	ア					

2018年11月18日 言語表現学科 国語基礎学力型

〔一〕

問1	1	2	3	4
	はやし	舞台	そうごん	徹底
	5	6	7	
	妥協	達成	浸透	
問2	ア			
問3	ウ			
問4	オ			
問5	相対			
問6	これを知っ			
問7	イ			

〔二〕

問 1	1		2	
	素描		対照	
問 2	問 3	問 4		問 5
エ	オ	イ		ウ
問 6		問 7		問 8
もちろんと		弾性に富む		エ
問 9				
<p>課題文で述べられている「ことばの『住み分け』」とは、和語と漢語の使い分けのことである。課題文の著者は、「意味が部分的に重なりながらもうまく住み分けている」と述べているが、「意味が部分的に重なり」とは、たとえば「とき」という和語と「時間」という漢語が、どちらも時に関わる内容を表すということである。「うまく住み分けている」とは、漢語が明白な意味の輪郭を感じさせると同時に社会的な機能を前面に押し出すのに対して、和語は弾性に富む意味範囲をもつと同時に個人的な親しみをこめることができるということである。</p> <p>著者が述べる「ことばの『住み分け』」について、私は「こころ」という和語と「心理」「精神」という漢語を具体例に考えてみたい。</p> <p>「こころ」という和語も「心情」「心理」「精神」「魂」という漢語も、どちらも目に見えない人間の心の動き・はたらきを表すという点で「意味が部分的に重な」っているが、「心理」「精神」という漢語が明白な意味の輪郭を感じさせるのに対して、「こころ」という和語は「気持ち」「情け」「誠意」などの意味まで表せるという点で意味範囲が弾性に富んでいる。さらに、「心理学」「精神主義」などの漢語表現には社会的な機能があるのに対し、「まごころ」「こころざし」などの和語には個人的な親しみがこめられている。</p> <p>以上みてきたように、日本語の中にある和語と漢語の「住み分け」状態は、日本語を使う人々の表現力を豊かにし、日本語を用いて生活してきた人々の感性・思想・文化・芸術を多様化させることに貢献したと私は考える。(651字)</p>				

2018年11月18日 心理学部 国語基礎学力型

〔一〕

問1	1	2	3	4
	はやし	舞台	そうごん	徹底
	5	6	7	
	妥協	達成	浸透	
問2	ア			
問3	ウ			
問4	オ			
問5	相対			
問6	これを知っ			
問7	イ			

〔二〕

問1	1		2	
	素描		対照	
問2	問3	問4	問2	
エ	オ	イ	エ	
問6		問7		問8
もちろんと		弾性に富む		エ

〔三〕

問1	白隠禅師には出家という決心をするに至った契機としての生きることに關する何らかの疑問があり、常にその疑問に向かい続けることによって、日常の中でその疑問が何度も何度も小さく解けたとを感じる心の動きがあったのだろう、と筆者は推察している。(115字)
問2	自分の中に立ち現れる「わからない何か」に対して、「わかろう」とする心の動きが生まれるので、「わからない何か」の答えを得ようという心を日常の中で持ち続けること。(78字)

【I】

問1	①	②	③	④
	追認	総務省	兼職	公布
	⑤	⑥	⑦	⑧
	施行	捜査	要件	質疑
問2	(1)	(2)	(3)	(4)
	そこ	さんせき	あらが	きょうぼうざい
	(5)	(6)	(7)	(8)
	へんちょう	ていけつ	おか	しいてき
問3	問4	問5	問6	問7
過疎	有権	投票	処罰	c

【II】

問1	①	②	③	④
	棚上	掌握	異議	透
	⑤	⑥	⑦	⑧
	一蹴	安全保障	宿願	選択肢
問2	(1)	(2)	(3)	(4)
	ひもと	ありよう	しば	にな
	(5)	(6)	(7)	(8)
	ゆだ	なら	はなは	じんだい
問3	d			
問4	軍事的脅威に対抗するうえで、非軍事的な努力をなすことが平和憲法の理念			
問5	制服組は、			
問6	軍事事項も行政事項も文官がトータルに把握する文官スタッフの優位性に見直しを迫り、武官も行政事項に与ったうえで、軍事に関する判断は軍事の専門家に委ねることが合理的だとして、武官の権限を拡大すること。			
問7	本当に軍事力が不可欠なのかを検討する余地が十分に残されているのに、国家や社会の安全を確保する最終的な手段として自衛隊の国軍化を急ぐ説得力のある説明がないままで、国軍化による軍事依存を安全確保の手段として主張することは、多様な手段や知恵を編み出す複合的なアプローチから安全と自由を確保しようという努力を放棄するに等しいから。			

2018年11月18日 経済学部 国語基礎学力型

〔一〕

問1	1	2	3	4
	はやし	舞台	そうごん	徹底
	5	6	7	
	妥協	達成	浸透	
問2	ア			
問3	ウ			
問4	オ			
問5	相対			
問6	これを知っ			
問7	イ			

〔二〕

問1	1		2	
	素描		対照	
問2	問3	問4	問2	
エ	オ	イ	エ	
問6		問7		問8
もちろんと		弾性に富む		エ

〔三〕

著者によれば、モラトリアムとは「若者の、身体的には大人でありながら、一人前の義務や責任を免除されている状態」のことである。現代社会は、若者にモラトリアムを保障するゆとりを失っているが、答えのない問いにじっくりと向き合いアイデンティティを確立していくための準備期間、「社会はどうあるべきか」といった公共的な問いに取り組む期間が若者には必要だと著者は述べている。

私は、誰にでも一定期間のモラトリアム状態は必要だ、という筆者の考えに賛成だ。しかし、現代の大学生たちが就職活動を背景に「じっくりと悩むヒマ」を保障されていない状況を、筆者が問題視している点には異論がある。なぜなら、私自身は、中学時代から高校時代にかけてモラトリアム期を過ごしたという意識があるからだ。「自己とは何か」「人はなぜ働くのか」といった問いについてじっくり思い悩んだからこそ、自分と社会の関わり方として大学に進学し、その後就職するという道を選べたのだと思う。

もちろん、人によってモラトリアムの時期は異なるだろう。大学で知り合う人たちがモラトリアム状態にあることを非難するつもりはない。しかし、著者も、モラトリアム期は「ないと人生が貧しくなるが、長く続きすぎても苦しい」と述べているように、私にとってのモラトリアム期は終わったと考えたい。大学時代は、明確な目標に向かって積極的に行動する時期にしたいのである。(587字)

〔I〕

問1 (1) $\frac{1}{a} = \frac{1}{2+\sqrt{3}} = \frac{2-\sqrt{3}}{(2+\sqrt{3})(2-\sqrt{3})} = 2-\sqrt{3}$

(2) $\frac{1}{b} = \frac{1}{\sqrt{2}+1} = \frac{\sqrt{2}-1}{(\sqrt{2}+1)(\sqrt{2}-1)} = \sqrt{2}-1$

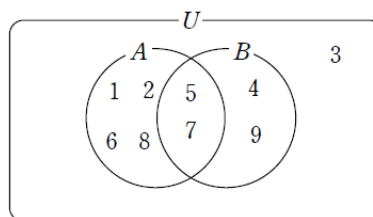
(3) $\frac{b}{a} - \frac{a}{b} = (\sqrt{2}+1)(2-\sqrt{3}) - (\sqrt{3}+2)(\sqrt{2}-1) = 4-2\sqrt{6}$

問2

右図より

$A = \{1, 2, 5, 6, 7, 8\}$

$(A \cap B) \cup (\bar{A} \cap B) = B = \{4, 5, 7, 9\}$



〔II〕 $y = -2x^2 + ax + a - 2 = -2\left(x - \frac{a}{4}\right)^2 + \frac{a^2}{8} + a - 2$

問1 $\left(\frac{a}{4}, \frac{a^2}{8} + a - 2\right)$

問2 $f(x) = -2x^2 + ax + a - 2$ とすると,

$f(-1) = -4 < 0, f(1) = 2a - 4 < 0 \dots\dots①$

$f\left(\frac{a}{4}\right) = \frac{a^2}{8} + a - 2 > 0 \Leftrightarrow a^2 + 8a - 16 > 0 \Leftrightarrow a < -4 - 4\sqrt{2}, -4 + 4\sqrt{2} < a \dots\dots②$

軸: $-1 < \frac{a}{4} < 1 \Leftrightarrow -4 < a < 4 \dots\dots③$

①~③より, 求める a の範囲は, $4\sqrt{2} - 4 < a < 2$

【別解】

$-2x^2 + ax + a - 2 = 0 \Leftrightarrow x^2 + 1 = \frac{1}{2}a(x+1)$

$g(x) = x^2 + 1$ とすると, $-1 < x < 1$ において, $y = g(x)$ と直線 $y = \frac{1}{2}a(x+1)$ が異なる

2点を共有する条件を求めればよい。

$-1 < x < 1$ において, $y = g(x)$ と直線 $y = \frac{1}{2}a(x+1)$ が接するのは $a = 4\sqrt{2} - 4$

点(1, 2)を共有するときは $a = 2$ よって, $4\sqrt{2} - 4 < a < 2$

〔III〕

問1 BC = x, AC = 3 - x として, 余弦定理を用いると,

$$x^2 = 1^2 + (3-x)^2 - 2 \cdot 1 \cdot (3-x) \cdot \cos 60^\circ \Leftrightarrow x^2 = 1 + 9 - 6x + x^2 - 3 + x$$

$$5x = 7 \Leftrightarrow x = \frac{7}{5} \quad \text{よって, } BC = \frac{7}{5}$$

問2 問1より AC = $3 - \frac{7}{5} = \frac{8}{5}$

$$AD : DC = BA : BC = 5 : 7 \quad \text{よって, } AD = \frac{8}{5} \times \frac{5}{5+7} = \frac{2}{3}$$

問3 $\triangle ABD$ に余弦定理を用いて, $BD^2 = 1^2 + \left(\frac{2}{3}\right)^2 - 2 \cdot 1 \cdot \frac{2}{3} \cdot \cos 60^\circ = \frac{7}{9}$

$$\text{よって, } BD = \frac{\sqrt{7}}{3}$$

[IV]

問1 X, Y の平均値を \bar{x}, \bar{y} とすると,

$$\bar{x} = \frac{83+87+81+79+90}{5} = \frac{420}{5} = 84$$

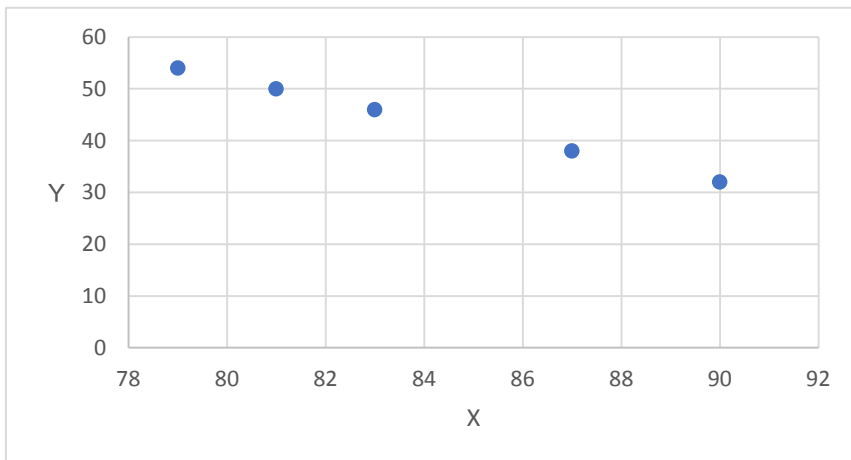
$$\bar{y} = \frac{46+38+50+54+32}{5} = \frac{220}{5} = 44$$

X, Y の分散を s_X^2, s_Y^2 とすると,

$$\begin{aligned} s_X^2 &= \frac{(83-84)^2 + (87-84)^2 + (81-84)^2 + (79-84)^2 + (90-84)^2}{5} \\ &= \frac{1+9+9+25+36}{5} = \frac{80}{5} = 16 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned} s_Y^2 &= \frac{(46-44)^2 + (38-44)^2 + (50-44)^2 + (54-44)^2 + (32-44)^2}{5} \\ &= \frac{4+36+36+100+144}{5} = \frac{320}{5} = 64 \end{aligned}$$

問2



Xが増えるとYが直線的に減る傾向にある。

問3 XとYは負の相関関係にある。

2018年11月18日 経営学部 国語基礎学力型

〔一〕

問1	1	2	3	4
	はやし	舞台	そうごん	徹底
	5	6	7	
	妥協	達成	浸透	
問2	ア			
問3	ウ			
問4	オ			
問5	相対			
問6	これを知っ			
問7	イ			

〔二〕

問1	1		2	
	素描		対照	
問2	問3	問4	問2	
エ	オ	イ	エ	
問6		問7		問8
もちろんと		弾性に富む		エ

〔三〕

問 1

オ

問 2

便利がもたらす良い点について、論者②はコンビニエンスストアの経営者の立場から、高齢者や働く女性がどんな時間帯でも家の近くで買い物ができること、大災害が起きた時にライフラインの役割を担えることを例に挙げている。

一方、便利がもたらす問題点については、論者①は深夜営業の店や宅配業者の大きな負担を指摘し、論者③は便利な商品やサービスにおける提供者側の価値観の押しつけと利用者の自由や主体性のなさを挙げている。

私の考えは論者③に近い。「本来あるべき便利のあり方」とは、利用者の自由や主体性をサポートするものであるべきだ。もちろん、論者①が述べる、高齢者や働く女性の生活の援助や、災害時のライフラインの確保は必要だ。しかし、前者は地域協力や企業内の助け合いで、後者は公的システムの改善で対応可能な問題だ。論者③が述べる、不便さがもたらす「主体性」や「工夫」の意識こそ、現代人に不足しているものである。(395字)



設問一	① 在籍	② 前提	③ 被り	④ 深刻	⑤ 策定
設問二	<p>女性の生涯未婚率が大きく上昇したことも影響してか、出生率の前提となる婚姻行動に劇的な変化が生じた。そもそも、人数が多いため、他の世代に比べて競争が激しく、進学や就職で不利益を被り易かった。そのうえ、社会人となった1990年代はバブル経済崩壊後の就職氷河期で、非正規社員の割合も高い。したがって経済的な余裕を欠いたためか、結婚が遅れがちになった。</p>				
設問三	<p>推計がなされた時点での生涯未婚率は、女性で5%以下にとどまっていた。したがって、多くの女性はやがて結婚し、子どもを産むタイミングが後ろにずれるだけで、出生率は変わらないだろうと仮定した。ところが、女性の生涯未婚率は大幅に上昇した。一方で、夫婦の平均的な子どもの数は、1980年代の2.2人と比較して2015年でも1.94人を維持しているので、さほど変わらない。以上より、1990年代から急激に晩婚化が進むと同時に、生涯未婚率が大きく上昇したことが、人口が大幅に少なくなった理由である。</p>				
設問四	<p>少子化対策にお金をかける必要もないだろうと楽観し、政府や自治体の少子化対策は不十分になりがちだった。すなわち、西欧諸国が少子化対策として強力に推し進めたような家族政策が進まなかった。その結果、晩婚化が少子化に直結してしまった。しかし、もしも、たとえば2000年に第3次ベビーブームが起きていたら、現時点で大学受験生世代の人口が多いことになる。未だ納税者としては社会に寄与せず、年金制度を支える中心的な役割を果たしてはいないだろう。それでも、現時点で既に崩壊寸前だと危惧されている年金制度の将来的な展望は、現在よりも遥かに明るくなっただろう。また、現在は大学全入時代だと言われているが、大学進学率は上昇する一方で、18歳人口が多いのであれば、往時のような熾烈な受験競争が再現したかもしれない。</p>				

二

設問一	① 配膳	② 拒まれ	③ 協賛	④ 阻害	⑤ 倍増
設問二	既に 18 歳未満の 6 人に 1 人が貧困とされ、とりわけひとり親世帯では子どもの貧困率が 5 割を超えていて、十分な食事を与えられていないかもしれない子どもを支えなければならないから。				
設問三	① 相対的		② 55		③ 52
設問四	第一に、安定した財源の確保である。そのためには、行政や民間からの助成を得たり、クラウドファンディングを利用したりする。あるいは、食材の寄付や会場の無償提供など現金によらない支援を得ることもある。第二に、貧困や孤食など、最も支援を必要としているはずの子どもにいかに来てもらうかということだ。情報を届けるためには、子どもの実情を知る学校や地域とつながる。直接的な宣伝活動を何度も繰り返すことも有効だ。第三に、貧困対策というイメージに起因する抵抗感をぬぐうことだ。困窮者だけが集まる場ではなく、誰でも交流できる場だと地域社会に認識させる。さらには、全ての人の居場所になれば地域が活性化すると地域社会に認識させる。				

設問一	ア	イ	ウ
	えんかつ	ざんていてき	こころよ (い)
	エ	オ	
	たんてき	なら (わし)	
設問二	a	b	c
	荒波	不思議	漫然
	d	e	
	成員	構想	
設問三	A	B	
	3	4	
設問四	(1) 人間が社会をつくる		
	(2) 社会をつくり、運営し、変える力としての社会力		
設問五	<p>ジンメルという「社会化」は、人々が日常的に繰り返している相互行為が、社会なるものを成り立たせている実体であり、それが社会を社会たらしめているということの意味する。また、心理学の常用語である「社会性」は、すでにある社会にうまく適応できている、社会に適応してやっていけるさまざまな知恵や技術を身につけているということの意味する。つまり、「社会化」も「社会性」も、既に存在する社会に対して各人がどのように向き合うべきかを問う概念である。これは現にある社会の側に重点を置いている。</p> <p>これに対して、「社会力」とは、社会を作り、作った社会を運営しつつ、その社会を絶えず作り変えていくために必要な資質や能力を意味する。これは社会を作る人間の側に力点を置いている。社会という実体は、人間と離れて存在しない。だから、既存の組織とか制度とか法律とか、人間の都合に応じていつでもなくせるし、いつでも都合のいいものに変えることができる。「社会力」はこうした社会の実情に即した概念である。</p> <p>何人かの生きた人間が集まっている状態が社会なるものの実体であり、人間は次々に生まれては死んでいく、すなわち、社会の構成員は刻々と変わっていくのだから、社会は常に変化していく。つまり、社会は常に生成の過程にある。完成態として確立されることはない。社会を構成する人間の能力や好みに応じて、社会は不断に刷新される。そうであれば、主体的に、好ましい社会を構想し、作り、改革していく意図と能力と、そのための日常的な活動こそが、重要になる。よって、「社会力」は、子どもや若者だけではなく、先行世代である大人たちを含む、社会を構成するあらゆる世代に必要な力である。</p>		

2018年11月18日 工学部 数学基礎学力型

【数学】

[I]

(1)

$$\begin{aligned}(\sin \theta - \cos \theta)^2 &= \sin^2 \theta - 2 \sin \theta \cos \theta + \cos^2 \theta \\ &= 1 - 2 \sin \theta \cos \theta \quad (\because \sin^2 \theta + \cos^2 \theta = 1)\end{aligned}$$

$$\sin \theta + \cos \theta = \frac{2}{\sqrt{5}} \quad \text{の両辺を2乗すると}$$

$$\sin^2 \theta + 2 \sin \theta \cos \theta + \cos^2 \theta = \frac{4}{5} \quad \Leftrightarrow \quad 1 + 2 \sin \theta \cos \theta = \frac{4}{5} \quad \therefore \sin \theta \cos \theta = -\frac{1}{10}$$

$$\text{以上より, } (\sin \theta - \cos \theta)^2 = 1 - 2\left(-\frac{1}{10}\right) = \frac{6}{5}$$

$$\therefore \sin \theta - \cos \theta = \pm \sqrt{\frac{6}{5}} = \pm \frac{\sqrt{30}}{5} \quad \dots \text{【答】}$$

(2)

$$\begin{aligned}\sin^3 \theta - \cos^3 \theta &= (\sin \theta - \cos \theta)(\sin^2 \theta + \sin \theta \cos \theta + \cos^2 \theta) \\ &= \pm \frac{\sqrt{30}}{5} \left(1 - \frac{1}{10}\right) = \pm \frac{9\sqrt{30}}{50} \quad \dots \text{【答】}\end{aligned}$$

[II]

(1)

2本とも当たりくじを引く確率を考え、

$$\frac{x}{y} \times \frac{x-1}{y-1} = \frac{1}{12} \quad \text{より,} \quad 12x(x-1) = y(y-1) \quad \cdots \textcircled{1}$$

①の左辺は4の倍数であり、 y と $y-1$ は偶奇が異なるので、 y または $y-1$ が4の倍数。

$10 \leq y < 20$ も考慮すると、 $y = 12, 13, 16, 17$ のいずれかである。

また、①の左辺は3の倍数であるので、 y または $y-1$ が3の倍数。

$\therefore y = 12, 13, 16$

i) $y = 12$ のとき

① : $12x(x-1) = 12 \cdot 11 \Leftrightarrow x^2 - x - 11 = 0$ 。これを満たす整数 x は存在しない。

ii) $y = 13$ のとき

① : $12x(x-1) = 13 \cdot 12 \Leftrightarrow x^2 - x - 13 = 0$ 。これを満たす整数 x は存在しない。

iii) $y = 16$ のとき

① : $12x(x-1) = 16 \cdot 15 \Leftrightarrow (x-5)(x+4) = 0$ 。 x は自然数より、 $x = 5$

以上より、 $x = 5, y = 16 \quad \cdots$ 【答】

(2)

(1) より、当たりくじは5本、はずれくじは $16 - 5 = 11$ 本であるので、1本目がはずれて2本目が当たる確率は

$$\frac{11}{16} \times \frac{5}{15} = \frac{11}{48} \quad \cdots \text{【答】}$$

[Ⅲ]

(1)

右図のように、円と放物線が $y > 0$ の範囲で接すればよい。

円の方程式は、 $x^2 + (y-a)^2 = \frac{3}{4}$

$$\begin{cases} x^2 + (y-a)^2 = \frac{3}{4} \\ y = x^2 \end{cases} \Leftrightarrow y + (y-a)^2 = \frac{3}{4} \Leftrightarrow y^2 + (1-2a)y + a^2 - \frac{3}{4} = 0 \quad \dots \textcircled{1}$$

y の2次方程式①の判別式を D とすると、円と放物線が接するとき $D=0$ より、

$$D = (1-2a)^2 - 4 \cdot 1 \cdot \left(a^2 - \frac{3}{4}\right) = 0 \Leftrightarrow 4 - 4a = 0 \quad \text{より、} \quad a = 1$$

$$\text{このとき、} \textcircled{1} : y^2 - y + \frac{1}{4} = 0 \Leftrightarrow \left(y - \frac{1}{2}\right)^2 = 0 \quad \text{より、} \quad y = \frac{1}{2}$$

$$\frac{1}{2} = x^2 \quad \text{より、} \quad x = \pm \frac{\sqrt{2}}{2}$$

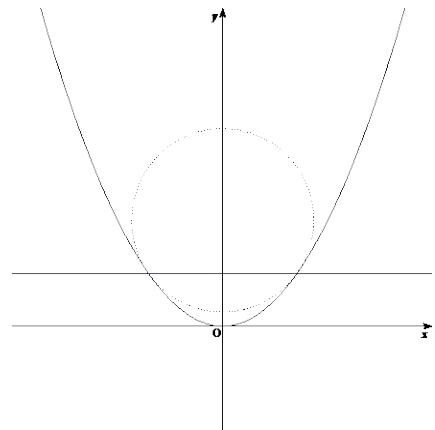
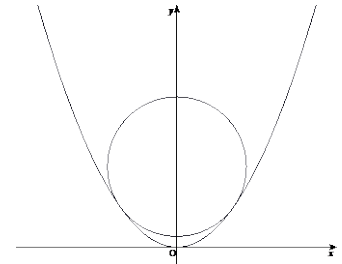
以上から、 $a=1$ 、共有点の座標は $\left(\pm \frac{\sqrt{2}}{2}, \frac{1}{2}\right)$ …【答】

(2)

(1) より、放物線と円の共有点の座標は $\left(\pm \frac{\sqrt{2}}{2}, \frac{1}{2}\right)$ であり、2つの共有点を通る直線は

$y = \frac{1}{2}$ である。

$$\begin{aligned} \therefore S &= \int_{-\frac{\sqrt{2}}{2}}^{\frac{\sqrt{2}}{2}} \left(\frac{1}{2} - x^2\right) dx \\ &= \frac{1}{6} \left\{ \frac{\sqrt{2}}{2} - \left(-\frac{\sqrt{2}}{2}\right) \right\}^3 = \frac{\sqrt{2}}{3} \quad \dots \text{【答】} \end{aligned}$$



【論述問題】

[I]

(1) 私は車の燃料の進化について関心を持っている。車の燃料は従来ガソリンが主流だったが、近年では電気・水素・二酸化炭素などを燃料とする車の開発が進んでいる。これらの燃料がガソリンにとって変われば、燃料コストの削減につながるだけでなく、大気汚染などの環境問題の改善にもつながると考えるからである。 (144 文字)

(2) 科学技術の情報を得るメディアとして、インターネットが最適であると考えている。インターネットは他のメディアと比べて、多くの情報をより速く手に入れることができるからである。また、インターネットは他のメディアと異なり、情報を検索することもできるので、必要な情報のみを得ることができるという利点もある。 (145 文字)

[II]

私が情報工学科を志望する理由は、私が将来希望している職に就くために必要な知識やスキルを得られると考えるからです。私は小学生の頃から情報機器、特にパソコンが好きで機器の仕組みや通信に興味を持つようになりました。そして、システムエンジニアとして活躍している父の姿に憧れ、私自身もシステムエンジニアをを目指すようになりました。しかし、現在の私は情報工学に関する専門的な知識がほとんどありません。なぜなら、これまでに情報工学を体系的に学んだ経験がないからです。それ故、貴学のような充実した設備・環境の下で情報工学を基礎から学び、将来の仕事に大学で学んだ知識や経験を生かしていきたいと考えています。 (294 文字)

〔一〕

問1	1	2	3	4
	はやし	舞台	そうごん	徹底
	5	6	7	
	妥協	達成	浸透	
問2	ア			
問3	ウ			
問4	オ			
問5	相対			
問6	これを知っ			
問7	イ			

〔二〕

問1	1		2	
	素描		対照	
問2	問3	問4	問5	
エ	オ	イ	ウ	
問6		問7		問8
もちろんと		弾性に富む		エ

〔三〕

部活動に伴う暴力は傷害罪という犯罪に等しいという認識は広まりつつあれど、未だに指導者や上級生による暴力事例は頻繁に報じられている。部活動から理不尽な暴力を根絶することが先ず何よりも重要だ。物理的暴力の根絶と同時に、精神鍛錬を説く風潮からの脱却も必要だ。身体的および精神的な苦痛のうえにこそ栄光が築かれるという神話は既に無効なのだ。けれども、指導者は勿論のこと、部活動に参加する中学生や高校生も、その神話に未だ囚われている。「自ら考える・取り組む」ことを免除される安直さに傾きがちなのだろう。

「スポーツは、何より楽しまなくてははいけない」という原則を日本の部活動が取り戻すためには、まだまだかなりの時間を必要とするだろう。しかし、これこそ、全国の部活動が共通して追求すべきだ。そして、自分が楽しもうとしてはじめて「自ら考える・取り組む」主体性が培われていくだろう。

2018年10月28日 スポーツ教育・競技スポーツ科学科 実技型(国語読解力テスト)

I

問1					問2				
(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	ア	イ	ウ	エ	オ
4	5	1	2	3	8	3	10	6	4
問3	問4	問5			問6				
		a	b	c	1	2	3	4	
2	4	2	5	1	2	2	2	1	

II

問1							
(1)	(2)	(3)	(4)				
3	2	4	5				
問2							
ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク
5	3	1	4	2	3	1	4
問3	問4	問5					
		1	2	3	4	5	
2	4	2	1	1	2	2	

課題文の著者は、「社会は若者に冷たくてよい、高校卒業後も親が子にいろいろするのが当然という考え方は、現代日本には広く共有されている」「親の格差は子どもの格差に引き継がれることは当然だと考える人が増えている」と述べている。この風潮の中で、「大学生の子を持つ親の教育費負担の年収に占める割合は、およそ4割」に達し、近年給与収入が減少する一方の親の負担は限界に来ていると著者は結論づけている。

私は、現代日本の高等教育政策について、公的な補助が不足していると考えます。課題文によれば、日本政府の高等教育に対する交付金や奨学金の学生一人当たりの支出額は先進国のなかでも最低のレベルである。日本と他の先進国との間でこのような差が生じる理由は、ヨーロッパ諸国やアメリカでは「子供は社会が育てる」「高校卒業後の若者は、社会で面倒を見るべき」だという意識が浸透しているからだそうだ。

現代の日本人の考え方を「子どもは社会が育てる」という方向に切り替えていかねばならない。課題文で紹介されている贈与税免除の方向では、親の経済格差が受け継がれてしまう。親の経済格差を子どもに引き継がず、親の経済的負担を軽くするには、公的補助を増やすべきである。それも、現在実現しつつある高校の授業料無償化よりも、とくに高額になりがちな大学・専門学校の授業料に対する補助を増やすべきである。(573字)

問1

一見雑然としたものの中からキーになる情報を引き出す作業、自分の持っている知識のうち、どれが今回の問題解決に有効かを見極める作業など、自分が置かれた状況やニーズを的確に把握し自分の頭で考えるという点。(99字)

問2

著者は、「勉強で考える習慣や能力を身につけていない人は仕事もできない」「大学で知識を得て、そしてその知識をベースにして、自分なりの考えを組み立て、表明するという知的トレーニングを積み重ねることで、社会人としての力が磨かれていく」と述べている。

私は著者の意見に勇気づけられる。なぜなら、私自身が間もなく大学で学ぶ立場にあるからだ。私が専門学校ではなく大学への進学を希望しているのは、職場で用いる細かい技術よりも、仕事をする上での基本になる考え方や社会に対する関わり方を学びたいからである。

著者によれば、学問から学ぶべきなのは、「一見雑然としたものの中からキーになる情報を引き出す」「自分の持っている知識のうち、どれが今回の問題解決に有効かを見極める」といった習慣だ。私は、高校時代までは、知識が増えるにしたがって問題の解決法の知識も増えていくと思っていた。しかし、社会人になれば、マニュアル的な解決法では対処しきれないほどの複雑な状況の中で仕事をしなければならないだろう。複雑な情報の中から「キーになる情報」を引き出し、「自分の持っている知識」を応用するトレーニングを大学で積み重ねていきたい。(496字)

設問一

「指示されたことを実行する」

設問二

教育とはもともと社会の要請を強く反映するもので、明治の人々が当時の政界情勢の中、どうすれば日本が生き残っていけるかを、真剣に考えたうえで国家の発展に寄与する人材の育成を教育に求めたことは、十分に合理的だっただろうと理解できるから。(115字)

設問三

「指示されたことを実行する」だけでは、もはや社会がうまく動かなくなっていることは、各方面から指摘されている。むしろ各人が「自分の意見や考えを主張する」ことが必要であると主張されるようになって、既に久しい。しかしながら、日本の教育は長らく「指示されたことを実行する」人材育成に傾注してきたので、急に方向転換することは容易ではない。それでも、少しずつでも、方向転換を図る必要があるだろう。

単に有名大学を卒業しているというだけでは、今日では何の意味もない。それだけの人材では社会から必要とされない。大学で具体的に何を学んできたかが厳しく問われるようになっている。それゆえ、自分の資質を理解したうえで主体的に学び、その能力を伸ばし、その結果として、固有の意見や考えを主張できるような人材を育成すべく、教育は変わらなければならない。(361字)

問一

6	1
飯場	抹消
7	2
幼稚園	挑発
8	3
葬	発覚
9	4
因果	天涯
10	5
急務	遺棄

問二

地区のこと	日雇い労働者が集まるため簡易宿泊所が多い
-------	----------------------

問三

情報を得た気持ちを持ち。	情報を得た気持ちを持ち。
--------------	--------------

問四

家族と知りわけけ弟との関係性を不仲にしただ、生	家族と知りわけけ弟との関係性を不仲にしただ、生
活できなない	活できなない
うから。	うから。

問五

「個人」に比重を置きすぎたために、「家族」という集団としてのあり方が崩壊し、本来あるべき社会の姿から逸脱しているのではないか。(63字)

問六

著者は、幼児虐待も高齢者放置問題も「家庭」や「家族」のあり方が変わり、崩壊したことが理由だと考えている。私も、筆者の意見は現状を説明するものとして妥当なものだと考える。自由を享受したいという「個人」の欲望が高まった結果、家族という集団形態が崩壊する事態が起こっているのではないだろうか。

以前ならば、家庭がうまく機能しない場合も、地域コミュニティの役割によって補うことが出来たが、これも生活の利便化に伴い人間的交流を大きく減退させてしまった。何しろ同じ空間にいる社員同士が、口頭ではなく電子メールでやりとりする時代である。「個人」の欲望の高まりがここでも、人付き合いをしがらみや面倒なものとして捉える風潮を

つくり出してしまっているように感じる。

また、近年の傾向として、個人情報が必要以上に尊厳化されていることも、この問題につながっているように思える。気軽に他者の情報を聞くことさえ、どこかタブーを感じるようになった。家族に限らず、他者への立ち入りが嚴重なものになるほど、人に対する関心が弱まっていく。諸問題の根底にあるのは、「他者への無関心」ではないだろうか。

(498字)